

札幌市立新川西中学校の取組

1 道徳科の指導について

・授業づくりのポイント

本校では、昨年度から校内研修において道徳の教科化に向けて、学習の在り方や評価の仕方について研修を進めてきた。

道徳科の学習で研究の重点としてきたことは、「考え話し合う道徳の授業と道徳性を養う指導の工夫」である。生徒は話し合いを通して学習の対象と深く関わり、理解の質を高めていくことで道徳的価値が形成されると考える。昨年度から、生徒の見方や考え方を引き出すことを大切にしながら授業づくりをしている。

・多様な学習展開

本校では、展開部分に話し合い活動を通して子どもたちが考えたことを交流する場面を設けている。自分自身の考えを整理し、自分の考えを伝えるとともに他者の意見を聞くことで、多面的・多角的に考える時間となるよう工夫している。話し合いの形態は多様である。二人ペアや四人ユニット、学級全体での話し合いなど、扱う教材に合わせて選択している。

いずれにしても、①ねらいとする道徳的価値の大切さや実現することのよさ（難しさ）を考えさせるため、②道徳的価値に関する多様な感じ方、考え方に気づかせるため、③自分自身の感じ方、考え方をはっきりさせるため等、授業者は何のためか話し合いを行っているのかを意識した道徳の授業の構想を大切にしている。

話し合いが活性化するための手段として、話題や視点を明確にするためのワークシートを活用や、思考の整理を目的としたシンキングツールの活用を行っている。

・学習指導における配慮事項

校内研修の中で学習案やワークシートを全教員が共有できるようにデータをフォルダに保存することを確認した。生徒の実態や学校行事に合わせて、道徳科の学習を実践している。

2 道徳科の評価について

・評価の工夫と留意点

校内研修で、評価の観点や方法について共通理解を図った。「道徳性の評価」ではなく、「一面的な見方から多面的・多角的な見方への変容が見られるか」、「自分自身との関わりの中で深められているか」という視点で評価することを確認した。

日々の道徳科の授業では、授業の振り返りや自己評価を校内で統一した形式でワークシートの中に取り入れている。また、学期末に自分の学びの振り返りを行っている。それらをポートフォリオとして綴り、そこに書かれた生徒の学習状況や成長の様子を基に、個々の内容項目ではなく、大きくくりなまとまりで各担任が評価を行っている。また、ワークシートの記述ではない形で表出する生徒の姿にも着目している。

・校内で共通理解を図るための手だて

校内研修において、実際に生徒が授業で記入したワークシートを持ち寄り、生徒の学習活動の見取り方や評価の視点について検討し、共通理解を図った。